本と地域の情報誌
県北どらくろあ
第108号　2025年3月1日（毎月1日発行）

中国5県絶景の旅③

「山口県下関市吉田・明月山常関寺
――鎌倉のあじさい寺由来の山号

子供の頃にテレビで放映されていた山口県萩市のCMソング……、その一部を今でも覚えている。澄んだ女性の声で「～わたしの心の町、城下町、萩」としっとり唄っている。町中の映像が流れていた記憶があるのだが、もう半世紀以上も前なので、すっかりぼやけてしまっている。しかし、萩に対する憧憬だけは心の奥にずっと残っていた。

絶景の旅で山口県を選んだとき、行先はすぐに決まった。萩市といえば、長州藩毛利家の城下町である。かつて備後国地毗庄（現広島県庄原市）の領主であった山内首藤（やまのうちすどう）家も、毛利家の家臣として随行、江戸時代は家老として長州藩を支えた。どうせ行くなら、山内首藤家のゆかりの地も訪れてみたいと思った。

出発は2月11日火曜日、建国記念の祝日である。車で家を出たのは朝の9時過ぎで、庄原インターチェンジから中国縦貫道に入った。途中、何度かサービスエリアで休憩を取りながら、山口インターチェンジまで3時間もかからない。休日割引で、利用料金が30パーセント引きなのが嬉しい。

2日前にかなり雪が降り、積雪や路面の凍結が心配だったが、きれいに除雪されていて走行に問題はなかった。冬用タイヤ規制で、パーキングエリアを利用した検問所が設けられている。冬用タイヤでない車は、チェーン装着が強制される。雪のない道路をチェーンで走行している車が何台かいたが、車体が揺れて不安定で危険、あれでは路面も傷んでしまう。

2月は在庫整理休業期間であり、持病の腰痛もあるので、ゆったりとした旅程を組んだ。昼食後に、湯田温泉の日帰り入浴施設で寛いだ。開湯は約600年前と言われ、田んぼの真ん中で湯が湧き出たから「湯田温泉」。白狐が傷を治すために通っているのを高僧が見かけて発見したという伝説から、「白狐の湯」と呼ばれている。その日はそのまま近くのネットカフェの個室で一泊、最近のマイブームである。

翌日、下関市吉田にある長州・山内家の菩提寺である「常関寺」を目指した。関ヶ原の合戦後、毛利家が防長の地に減封になり、山内家は厚狭郡吉田（現・下関市吉田）に4905石の所領を与えられた。

住所をナビに入力したのだが、必要もない高速道路に誘導されあげく、途中で画面がフリーズ。古い機械で今まで何度かひどい目にあったのだが、買い替えが面倒でそのまま使っていたが、完全に壊れてしまった。スマートフォンのナビに切り替えて、どうにか目

長州山内家の菩提寺・明月山常関寺の本堂
（※白くぼやけているのはレンズに付着した水滴）

山門からはのどかな山村の風景が一望できる

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会